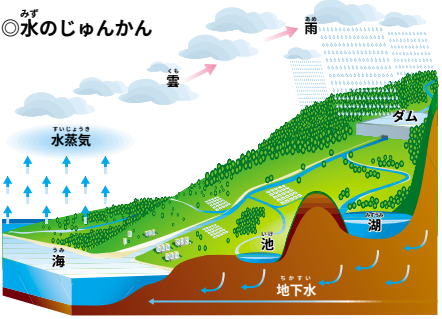
川の水と、私たちの暮らしとの深〜い関係。

川の水はどこから来て、どこへ流れて行くのか。

水が一番たくさんあるところといえば、海だよね。その海や湖の水は、太陽に温められると水蒸気になって空へのぼっていくんだ。水蒸気は、雲になり冷やされると雨や雪になる。雨や雪は、海に降ったり、陸地に降って川になり、海や湖にもどっていく（地面にしみこんで、地下水になって海にもどる水もある）。これを水のじゅんかんと言うんだ。

ダムは、洪水による災害をふせぐ目的やみんなの飲み水などを安定して届けられるよう、ダムなどにいったんためて、計画的に下流へと水を流しているんだ。私たちの使っている水は、このように上流から流れてきた水を、川から浄水場にとりいれ、水道を使って家や工場などに送られている。使ったあとは、下水道に流され、下水処理場できれいにしてから再び川に流されるといったふうに、海と陸の間の大きな水のじゅんかんの中の一部となっているんだ。

◎水のじゅんかん



川の水は何に使われているのか。

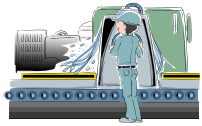
川の水は私たちの暮らしに欠かせないものとして、広い地域で使われているんだ。大きく次のように分けられるよ。

●暮らしのための水（生活用水）
私たちの家の飲み水やお風呂、トイレなどで使う水。お風呂、トイレなどで使う水。また、家だけでなく、学校や病院など、生活に関わるいろいろな場所で使われている大切な水だね。

●農家で作物をつくるための水（農業用水）
田んぼや畑、養豚場など、農家ではたくさんの水を使っている。とくに、春から夏にかけては、田んぼや畑の作物にたくさんの水が必要となるため、冬にくらべて使う水の量は多くなるんだ。

●工場で物をつくるための水（工業用水）
いろいろな工場では、物をつくるとき、洗ったり冷やしたりするのに、とてもたくさんの水を使っているんだ。水がないと、車やテレビもつくれなくなってしまうんだよ。

●電気をつくるための水（発電用水）
高いところにある水を、低いところへ流して水車を回す力に変え、水車につないだ発電機を回して発電するのが水力発電のしくみ。自然の水を一時的に利用して電気をつくる水力発電は、とても環境にやさしい発電なんだ。水は水力発電所で電気に形をかえて、毎日の暮らしに役立っているんだね。



ダムの水はどうやって家までやって来るのか。

ダムにためられた水は、川につくられた取水口から取り入れられ浄水場に流される。浄水場でごみや汚れが取りのぞかれ消毒されてから、地中に埋められた水道管を通って家の水道から出てくるんだ。あまり汚れがひどいと浄水場の仕事がたいへんになるので、ダムや川の水を汚さないように注意しようね。